

2012年4月27日

関係各位

野村ホールディングス株式会社

コード番号8604

東証・大証・名証第一部

野村ホールディングス、2012年3月期の連結決算を発表

野村ホールディングス株式会社(グループCEO:渡部賢一)は、本日、2012年3月期(以下「当期」)の通期ならびに第4四半期(2012年1-3月、以下「当四半期」)の連結決算を発表した。

当期の収益合計(金融費用控除後)は15,359億円、税前利益は850億円、同社株主に帰属する当期純利益は116億円であった。

当四半期の収益合計(金融費用控除後)は4,990億円、税前利益は608億円、同社株主に帰属する当四半期純利益は221億円となった。

同社グループCEOの渡部賢一は、以下のとおりコメントした。

「第4四半期は、第3四半期に続いて前四半期比、前年同期比で増収・増益となった。全部門が税前黒字を計上、営業部門は商品ラインアップを充実させ幅広い顧客層のニーズに応えたことで、前四半期比で大幅な増益となった。アセット・マネジメント部門は運用資産残高が増加し、安定的な収益をあげた。ホールセール部門は、フィクスト・インカム、エクイティは顧客ビジネスフローやトレーディングが好調で増収・増益となり、インベストメント・バンキングも国や地域を超えたグローバル案件を継続的に手がけることができた。

欧州危機により第2四半期は厳しい決算となったが、下半期におけるビジネスの回復で通期では黒字を計上することができた。総額12億ドルの費用削減計画も計画通りに進捗しており、規制強化を見越してリスク資産を圧縮してリスク管理を強化した。今後も強固な財務基盤と潤沢な手元流動性を維持しつつ、顧客中心主義を徹底し、アジアに立脚したグローバル金融サービスグループとして邁進していく。」

2012年3月期の配当額は年間6円とする。2012年3月末日を基準日とする配当金(支払開始日:2012年6月1日)については、1株あたり2円となる。

当期通期決算のポイント

当期通期決算のハイライトは以下のとおり。

| | 2012年3月期 第4四半期 | 前四半期比 | 前年同期比 | 2012年3月期 通期 | 前年比 |
|-------------------|-------------------|-------|-------|----------------|------|
| 収益合計 (金融費用控除後) | 4,990億円 | +23% | +67% | 15,359億円 | +36% |
| 税前利益 | 608億円 | +76% | +62% | 850億円 | △9% |
| 純利益 | 221億円 | +24% | +86% | 116億円 | △60% |

- 通期の収益は 15,359 億円、税前利益は 850 億円、当期純利益は日本における税制改正の影響により 133 億円減少して 116 億円となった。
- 当期は欧州金融危機を背景とした厳しい市場環境であったが、収益環境の変化に迅速に対応し、損益分岐点の引下げにも取り組んだことにより、第 2 四半期を底として下半期に利益が回復、通期では黒字を計上した。
- 営業部門は、厳しい市場環境を受けて前年比で減収となったものの、全社利益に大きく貢献した。コンサルティング営業の継続によって、顧客資産も約 2.4 兆円の純増となった。
- アセット・マネジメント部門は、資金獲得と費用抑制に努めた結果、前年比で増益となった。
- ホールセール部門は、欧州危機を背景とした市場の低迷によって上期に税前損失を計上したが、下半期は回復基調となっている。
- 2012 年 3 月末における速報値で、自己資本比率は 16.4%、Tier 1 比率は 14.1%。2012 年 3 月末現在の B/S の資産合計は 35.7 兆円、株主資本は 2.1 兆円、グロスレバレッジは 16.9 倍、調整後レバレッジは 10.4 倍である。

当四半期の各部門の状況

● 営業部門

収益合計(金融費用控除後)は924億円、税前利益は203億円であった。

市場環境の好転や投資家のリスク許容度の高まりを受け、株式や株式投信など中心に募集買付額が増加し、収益を牽引した。また、商品ラインアップを充実させ、幅広い顧客層のニーズに応えるコンサルティング営業を継続した結果、顧客資産は1,853億円純増し、8四半期連続の純増となった。

| | 2012年3月期 第4四半期(10億円) | 前四半期比 | 前年同期比 |
|-------------------|-------------------------|-------|-------|
| 収益合計 (金融費用控除後) | 92.4 | +16% | △4% |
| 税前利益 | 20.3 | +101% | +15% |

● アセット・マネジメント部門

アセット・マネジメント部門の収益合計は157億円、税前利益は41億円であった。

投資信託ビジネスでは、従来から取り組んできた商品開発力の向上や運用手法の多様化が投資家の支持を得て、当期新規設定の投資信託の残高が大きく増えたほか、銀行窓販を通じた運用資産残高や販売金融機関数も順調に増加している。投資顧問ビジネスでも、海外の政府系ファンドや年金から日本株に加えアジア株、グローバル債券など多様な運用プロダクトに引き続き資金が流入し、国内でも大手年金から日本株運用を受託して運用資産を拡大している。

| | 2012年3月期 第4四半期(10億円) | 前四半期比 | 前年同期比 |
|-------------------|-------------------------|-------|-------|
| 収益合計 (金融費用控除後) | 15.7 | +3% | △9% |
| 税前利益 | 4.1 | △3% | △34% |

● ホールセール部門

ホールセール部門の収益は1,592億円、税前利益は125億円であった。欧州・米州地域とも、順調に収益を回復させており、欧州の収益は4四半期ぶりの高水準、また米州においても、2009年4月以降で最大の四半期収益を計上した。

- グローバル・マーケットは、フィクスト・インカム、エクイティ共に、海外を中心に収益が大きく改善した。
 - ✓ フィクスト・インカムは、広範なビジネスにわたって堅調な顧客ビジネスフローと的確なリスク管理が奏功し、今期最高の四半期収益を計上した。特に金利プロダクトがグローバルで大幅増収となり、証券化商品も収益が回復した。
 - ✓ エクイティでも顧客フローからの収益が回復した。グローバル主要市場の株価指数回復に伴い、トレーディングも好調であった。日本では株式市場の回復に伴い、プライマリー案件が増加し、アジアではインベストメント・バンキングとのコワークによるデリバティブ・ビジネスが収益に寄与するなど、日本とアジアが増収を牽引した。
- インベストメント・バンキングでは、ソリューション・ビジネスなどが全地域で収益に貢献したほか、グローバルに ECM 案件からの収益が増加した。地域間連携が浸透し、国内・海外共に国や地域を超えたグローバル案件が増加している。

| | 2012年3月期 第4四半期(10億円) | 前四半期比 | 前年同期比 |
|-------------------|-------------------------|-------|-------|
| 収益合計 (金融費用控除後) | 159.2 | △10% | △15% |
| 税前利益 | 12.5 | △67% | △57% |

以上

詳細につきましては、当社ホームページ(<http://www.nomuraholdings.com/jp/investor/>)にて掲載の決算短信および決算説明資料をご覧ください。また、本日(2012年4月27日)午後6時30分より、決算説明会(テレフォン・カンファレンス)を開催する予定です。この模様は、当社ホームページ(<http://www.nomura.com/jp/>)を通じてライブ配信いたします。

本資料は、米国会計基準による2012年3月期通期ならびに第4四半期決算の業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。本資料に含まれる連結財務情報は、監査対象外とされております。

本資料に掲載されている事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではなく、今後、予告なしに変更されることがあります。本資料は、2012年4月27日現在のデータに基づき作成されております。なお、本資料で使用するデータおよび表現等の欠落・誤謬等につきましてはその責を負いかねますのでご了承ください。

本資料は将来の予測等に関する情報を含む場合がありますが、これらの情報はあくまで当社の予測であり、その時々状況により変更を余儀なくされることがあります。なお、変更があった場合でも当社は本資料を改訂する義務を負いかねますのでご了承ください。

本資料のいかなる部分も一切の権利は野村ホールディングス株式会社に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。